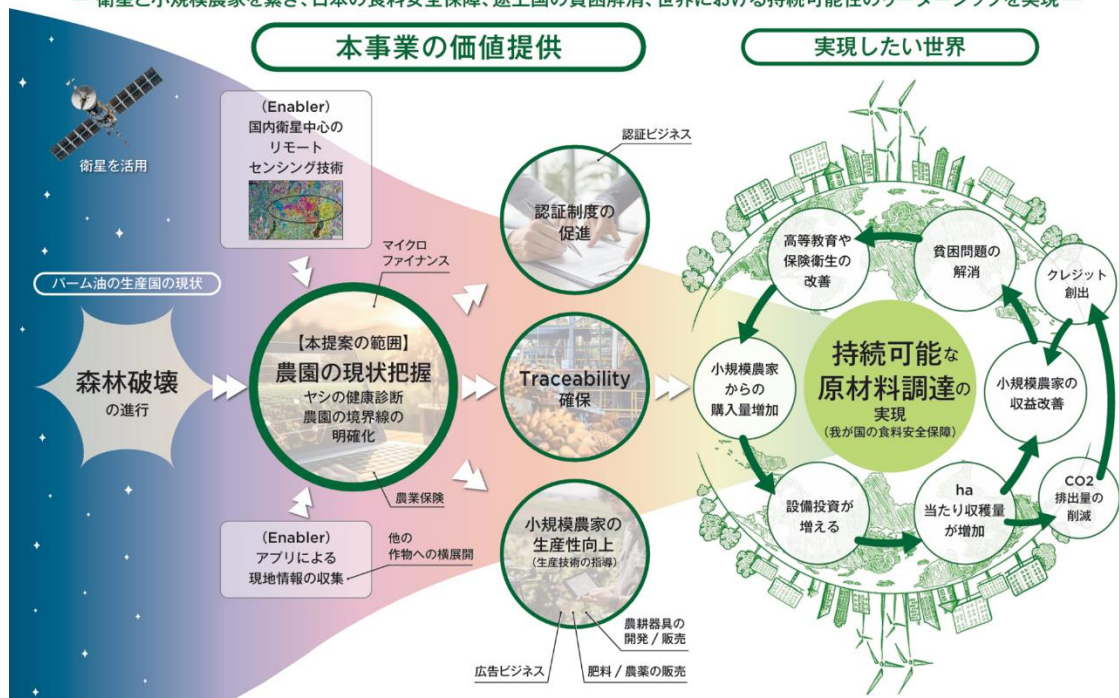


サステナブル調達に寄与する衛星データを活用したパームヤシ農家支援アプリ開発 に参画

With Satellite, Sustainably Right Procurement

— 衛星と小規模農家を繋ぎ、日本の食料安全保障、途上国の貧困解消、世界における持続可能性のリーダーシップを実現 —



出典：Space Tech Accelerator 株式会社

衛星データサービス企画株式会社（代表取締役社長 糸野 和孝、以下、SDS）は、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（以下、JAXA）が公募を行った宇宙戦略基金事業において、Space Tech Accelerator 株式会社（代表取締役社長 平賀 元気、以下、Space Tech Accelerator）が代表機関として提案・採択された、技術開発課題「サステナブル調達に寄与する衛星データを活用したパームヤシ農家支援アプリ開発」に連携機関として参画いたします。本プロジェクトは、Space Tech Accelerator が代表機関となり、株式会社スペースシフト、三菱電機株式会社、大日本印刷株式会社とともに開発を進めます。

背景・概要

- パーム油は植物油の一種でアブラヤシという植物から生成され、食品や生活用品、バイオマス燃料など幅広い分野で利用されています。パーム油の世界生産の約 9 割をインドネシア・マレーシアが担っており、植物油市場約 2 億トンの内の約 4 割を占める大市場である一方、森林破壊等の環境に与える影響も懸念されています。こうした状況を受け、EU（欧州連合）では森林減少フリー製品規則が制定される等、パーム油をはじめとする対象品目について、森林減少を引き起こしていないことの確認等が義務化されるようになっていきます^[1]。しかしながら、

特にインドネシアにおいては非常に広大な国土の中で、Smallholder と呼ばれるパームヤシ小規模農家が多く、国内パームヤシ農家の管理が不十分な状態が続いており、パーム油増産を掲げる現地政府としては、トレーサビリティ確保とサステナビリティ向上は必須課題となっています。

- 上記背景から、本プロジェクトでは衛星データと現場情報を活用し、農家の農法指導と DX 施策を提供するモバイルアプリを開発いたします。SDS はその中でもパームヤシの健康診断に関わり、三菱電機と協力して ALOS-2 等の衛星データの調達・解析支援を担当します。

今後の予定・将来展望

- 本プロジェクトは宇宙戦略基金第一期に採択されており、2025 年度内にインドネシアにて 100 人規模のユーザテストを実施予定です。さらに、様々な現地協力機関と連携し、アプリの社会実装に向けた実証を行います。本アプリは、単なる衛星データによるモニタリングにとどまらず、現地ステークホルダーとの連携により、現場情報（Ground Truth）を軸とした実用的なサービスを構築することで、国際的に求められるサプライチェーンの透明性向上や企業の説明責任強化に資する情報の提供を目指しています。今後はマレーシアやタイなど他の主要生産国への展開に加え、ココナッツやゴムなど他の農作物分野への応用も検討しており、2030 年までに 100 万人超の利用を目指します。

^[1] EU の森林減少防止に関する規則への対応について：農林水産省

パーム油のほか、牛、カカオ、コーヒー、ゴム、大豆、木材とその派生製品が対象になり、2025 年 12 月 30 日から（小規模・零細事業者は 2026 年 6 月 30 日から）適用されます。

お問い合わせ先

衛星データサービス企画株式会社

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 4-6-1 21 東和ビル 5 階

E-mail : info@SD-Services.co.jp

<https://www.sd-services.co.jp/>